〔８番　井端浩二　登壇〕

○８番（井端浩二）

皆さんおはようございます。私は、大きく二つに分けて質問させていただきます。

まずは、暑さ（熱中症）対策について質問させていただきます。今年も大変暑い夏でしたが、暑さについては大変幅が広いので幾つか質問があると思ったんですが、もっとしたかったんですが、七つに絞って、七つでも多いかもしれませんが、よろしくお願いいたします。

世界各地では、地球温暖化の影響により、猛暑をはじめ生態系など様々な影響が出ています。ネパールでも氷河の崩壊に伴う土石流による痛ましい被害が発生しました。また、富山県や福井県、そして愛知県名古屋市のほうでも線状降水帯が発生し、レベル５の大雨特別警報が発令されるなど大きな被害が出ております。飛騨市においても、今後、大雨特別警報が発令されるような事態を想定し、防災を考えなければならないと思います。

今回は、暑さ対策について質問します。近年発生している線状降水帯についても、地球温暖化の影響があるのではないかとされています。今後も地球温暖化は進むと言われており、飛騨市においても今年の夏も大変暑く、７月、８月には35度以上の猛暑日が14日ほどあったようです。気温が35度以上にもなると、道路やグラウンドの照り返しもあり、熱中症の危険性が高まります。学校行事やその他のイベントについても、暑い時期や時間を避けて行うなど対策がされています。畑仕事についても日中を避け、朝夕にされる方が多くいらっしゃいます。仕事においても、冷房が効いている会社や作業場であればいいのですが、冷房設備がない作業場や屋外での仕事は、非常に厳しい環境ではないかと考えられます。今後の暑さ対策について、次の７点を質問させていただきます。

１つ目、今年の暑さによる農作物等の被害について。今年の暑さによって、農作物にどのような影響があったのか。また、畜産についても、暑さによる影響はなかったのかお伺いします。あわせて、今後さらに暑くなることを想定し、農業や畜産に対する対策をどのように考えているのかお伺いします。

２つ目、暑さ（熱中症）対策による業務支援について。土木業や警備員、工場、農業、畜産などの作業現場では、既にファンつきの作業着を着て作業をしている方もいらっしゃいます。また、工場などでは、業務用扇風機やスポットクーラー、冷房設備などを導入しているところもあると思いますが、暑さ対策として、冷房設備のほかに屋根裏に断熱材の設置や換気設備などの暑さを軽減するための対策も考えられます。こうした暑さ対策について、市として事業者や作業現場への支援をどう考えているのかお伺いさせていただきます。設備によっては、省エネ対策と重なる部分も出てくると思いますが、併せて確認をさせていただきます。

３つ目、暑さ対策としての家庭への支援について。令和４年11月に、省エネ家電製品買替補助金制度が施行され、約４年が経過しました。実績を見ると、冷蔵庫や照明器具については減少してきていますが、エアコンについては少し増えているような気がします。脱炭素化を目的として買換えを条件としています。６月の前川議員の一般質問でも取り上げていましたが、近年の厳しい暑さを考えると、暑さ対策という観点から、エアコンや冷風機などの導入についても支援が必要ではないかと思います。これだけ暑くなると、新しく取り付けたい家庭も出てくるのではない

かと考えられます。もちろん、所得や年齢などの一定の条件を設ける必要はあると思いますが、市の考えをお伺いさせていただきます。

４つ目、増島保育園遊戯室の冷房設備について。８月４日に飛騨市の保育士の皆さんと議員との意見交換が行われ、様々な貴重な意見を伺いました。今回はその中でも、増島保育園の冷房設備について伺います。遊戯室は全児童が集まり、誕生会や七夕祭り、いろいろなお楽しみ会などを行う場所です。しかし、現在、その遊戯室には冷房設備がありません。今は臨時の大型冷房機をレンタルで対応しているとのことですが、その場所でしか涼しくない上、機械を置くことでスペースが狭くなり、子供たちが活動する上で危険な場所でもあるのではないかと思います。また、電気設備の容量が不足していることを伺い、かわいい子供たちが安心して元気で走り回れる遊戯室であってほしいと思います。

飛騨市内のほかの保育園には冷房設備は完備されており、冷房設備がないのは増島保育園の遊戯室だけと聞いております。また、保育園は市の指定避難所にも指定されており、夏の暑い時期に避難所として使用することを考えても、冷房設備がないことは心配です。一昨日、籠山議員の一般質問でも体育館の冷房設備の質問がありましたが、同じように子供の安心・安全、そして災害時の避難所としての環境設備という観点から必要と考えます。市の考えを伺います。

５つ目、独居高齢者、高齢者宅の見守り体制について。高齢者の方は、特に暑さによる影響は受けやすく、熱中症についても十分な注意が必要だと思います。高齢者の見守りについては、老人クラブで対応している地区や民生委員の方が対応している地区など、それぞれの地域によって様々な取組がされております。市としては、現在どのような見守り体制を取っているのか。また、今後、見守り体制をさらに強化する考えがないのか伺います。

６つ目、観光客の暑さ対策について。このような暑い中でも、飛騨市には多くの観光客が訪れ、汗をかきながら観光していただいていることは大変ありがたく思います。そこで、これは一つの提案ですが、観光客に飛騨市オリジナルのうちわをプレゼントしたらどうでしょうか。以前にも祭りの写真が入ったうちわがあったと記憶しております。飛騨市のＰＲにもなり、暑さ対策にもつながると思います。また、足湯に代わる暑さ対策として、瀬戸川の冷たい水などを活用して涼んでいただいたり、神岡町の道の駅などでも冷たい水に触れて涼んでいただけるような取組ができないでしょうか。観光客の皆さんに、暑いけど飛騨市は涼しくて気持ちがいいと感じてもらえるような暑さ対策について、市の考えを伺います。

７つ目、地下水の状況について。御母衣ダムは渇水状態にありましたが、今回の雨で回復したと思います。しかし、近年雪や雨が少なく、夏は暑く、水の使用量も増えていることから、今後についても心配です。水系は違いますが、市政報告会でも、暑さ対策として消雪設備の水を出したらどうかという意見がありました。以前にも井戸水が少ないという話がありましたが、今後も雪や雨が少なくなることが続いた場合、特に古川町の地下水はどのような状態になるのか、現在の地下水の状況と今後の対策について質問します。以上７点、たくさんですが、よろしくお願いいたします。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

（「議長」との声あり）　　※以下、この「議長」と呼ぶ声の表記は省略する。

◎議長（澤史朗）

洞口農林部長。　　※以下、この議長の発言者指名の表記は省略する。

〔農林部長　洞口廣之　登壇〕

□農林部長（洞口廣之）

おはようございます。それでは、私からは１点目の農業、畜産業への影響についてお答えをいたします。まず、水稲では「たかやまもち」について、早植えの水田の一部で高温による不稔もみが発生し、飛騨農林事務所の調査では、もみの約２割に発生した圃場もあったとお聞きしておりましたが、実際に収穫したところ、粒が大きくなったことなどから９俵を超える収量となっており、現時点では収量への大きな影響は確認されておりません。トマトにつきましては、「日焼け果」や「黄化玉」が一部で見られたものの、ＪＡひだによりますと、吉城選果場における８月20日までの出荷量は、過去最高と言われた昨年を上回っており、販売単価も前年を上回っております。また、ホウレンソウにつきましても、吉城、高原ともに出荷量、販売実績が前年を上回っており、現時点では大きな影響は見られておりません。

こうした結果につきましては、ＪＡや県の指導機関による高温対策の指導に加え、遮光資材の活用など、生産者の皆さんがそれぞれ対策に取り組まれたことも大きいものと考えております。

次に、畜産業についてですが、市内畜産農家への聞き取りでは、遮光ネットや送風機の設置など、各農家が主体的に取り組まれている暑熱対策が有効に機能しており、現時点では死亡や廃用など、暑熱による被害が疑われるようなケースは報告されておりません。このように、今年は非常に厳しい暑さとなり、農作物には一部で高温による影響が確認されたものの、生産者や関係機関による対策もあり、農業、畜産業ともに、現時点では経営に大きく影響するような被害には至っていないものと認識をしております。

一方で、今後も夏場の高温が続くことを前提に対策を進めていく必要がございます。市といたしましては、引き続きＪＡや県などの関係機関と連携し、農作物の生育状況や畜産への影響を早期に把握するとともに、高温に対応した栽培管理や畜舎の暑熱対策などを進め、必要な施設・設備については国県の補助制度も活用しながら、生産者の皆様の暑熱対策を支援してまいります。

〔農林部長　洞口廣之　着席〕

◎議長（澤史朗）

続いて答弁を求めます。

〔理事兼商工観光部長　森田雄一郎　登壇〕

□理事兼商工観光部長（森田雄一郎）

私からは、２点目と６点目についてお答えをいたします。

初めに２点目の暑さ、熱中症対策に対する業務支援についてお答えいたします。作業現場における熱中症対策等の作業環境の改善につきましては、市におきましても事業者の事業継続及び従業員の安全確保に関わる取組として、その必要性を認識しております。

本市では、本年１月の補正予算において、国の物価高騰対策重点支援地方交付金を活用し、飛騨市事業継続設備投資促進補助制度を創設いたしました。本制度では、設備投資促進事業として、省力化や作業工程の短縮等のための設備購入、設置費用のほか、従業員の作業環境改善を目的とした改装・設置費用、及び福利厚生の改善を目的とした休憩室等の改装・設置費用を補助対象と

しております。これまでの実績といたしましては、制度開始から本年８月末時点で市内の13事業者が本補助金を活用し、作業場へのエアコン設置や従業員用休憩所の整備といった暑さ対策を実施されております。また、ＧＸ推進設備導入補助事業でも、工場等における効率的な空調への更新について支援を行っているところです。

今後につきましては、設備投資への補助には多額の財源を要することから、市の財政状況や国等の交付金の活用可能性を見極めるとともに、市内経済の動向を踏まえながら、適切な支援の在り方を検討してまいります。

次に、６点目の観光客の暑さ対策についてお答えいたします。近年の全国的な猛暑が、観光にも影響を与えていることは承知しております。しかしながら、現状の飛騨市におきましては、暑さが観光に大きな影響を与えているという認識には至っておりません。実際、夏場に飛騨市を訪れる観光客の方々からは、飛騨はまだ涼しいというようなお声も頂戴することも少なくはございません。一方で、民間の観光事業者の中には、屋外のアクティビティーを提供するにあたり、時間を比較的涼しい朝や夕方にずらすなど、暑さ対策として自発的に工夫を凝らしておられるところも見受けられます。

市といたしましては、今後の気候変動や来年度以降の状況によっては、さらなる暑さ対策が必要になってくる可能性は十分にあると考えております。その際には、観光客向けのクーリングシェルターの設置や情報発信など、来訪者の皆様に快適かつ安全に過ごしていただけるよう、実施可能な施策から検討を進めてまいりたいと考えております。

〔理事兼商工観光部長　森田雄一郎　着席〕

◎議長（澤史朗）

続いて答弁を求めます。

〔環境水道部長　谷口正樹　登壇〕

□環境水道部長（谷口正樹）

私からは、３点目と７点目についてお答えいたします。

まず、３点目の暑さ対策として家庭への支援についてですが、議員御指摘のとおり、近年の地球温暖化に伴う厳しい暑さは、市民の生命と健康を脅かす重大な課題であると認識しております。

現在の支援制度の状況ですが、本市では、令和４年度からゼロカーボンシティ宣言の推進の観点から、省エネ性能に優れた家電製品の買換え支援策を実施しております。補助対象品目はエアコン、冷蔵庫・冷凍庫、照明器具、補助率は工事費は除きますけども購入金額の４分の１、補助金の上限額は５万円としており、県内でも同様の補助制度を設けている市は下呂市と関市ですが、いずれも補助率２分の１、上限１万円であるため、本市の支援策は手厚いものと考えております。

議員御指摘の暑さ対策という観点から、エアコンや冷風機の導入支援拡充についての御提案は理解いたします。しかしながら、現在の補助制度は脱炭素を目的とした買換えを条件としており、既存の補助率、上限額は県内でも最も手厚い支援となっております。上限額の増額については、現段階では予定しておりませんが、今後の気象変動の状況や市民ニーズを踏まえながら、制度の在り方について引き続き検討してまいります。

次に、７点目の地下水の状況についてお答えいたします。古川上水道の井戸水源において地下水位を観測しておりますので、その状況について申し上げます。昨年度は降雪が少なく、さらに

今年の夏は記録的な猛暑に加え、降水量も少ない状況が続きました。しかしながら、このような厳しい気象条件の中におきましても地下水位は安定しており、水源として良好な状態を保っております。

なお、水位が低下する要因といたしましては、このような夏の猛暑や少雨による影響よりも、冬期における消雪装置の稼働による影響のほうが大きいことが、これまでの観測で確認されております。市といたしましては、今後もこれらの観測データをしっかりと注視し、地下水の動向把握に努めてまいります。

〔環境水道部長　谷口正樹　着席〕

◎議長（澤史朗）

続いて答弁を求めます。

〔市民福祉部長　大上雅人　登壇〕

□市民福祉部長（大上雅人）

私からは、４点目の増島保育園遊戯室の冷房設備、５点目の高齢者宅への見守り体制についてお答えいたします。

１つ目の増島保育園遊戯室の冷房設備の整備については、運営する社会福祉法人吉城福祉会から、電気の容量不足により整備に多額の費用を要するため、まずは大型冷風機のリースなどで対策を講じていると伺っております。市といたしましても、近年は、夏は高温が続いておりますので、園児が安全に活動するためにも遊戯室に冷房設備が設置されることが望ましいと考えております。

また、今年度は増島保育園の園舎ＬＥＤ化工事が予定されており、事業費は約1,200万円が見込まれています。この事業については、国の就学前教育・保育施設整備交付金を活用して実施することとしており、対象経費について国が２分の１、市が４分の１を補助するもので、現在、所定の手続きを進めているところです。

今回は、保育士と議員の方々の意見交換会で御意見が出されたとのことですが、まずは運営法人において、優先順位を踏まえた今後の施設整備計画を立てていただきたいと考えており、市といたしましてもそのように働きかけてまいります。その上で、法人としての整備計画が示され、支援についての御要望を伺った際には、財源や他の施設整備とのバランスを踏まえ、市としてどのような支援が可能か改めて検討してまいりたいと考えております。

次に、高齢者の見守り体制についてお答えいたします。市内各地域における見守り体制としては、民生委員・児童委員、各区の福祉委員、配食サービス、地域サロンなど、社会福祉協議会における見守りネットワーク事業、市内企業との見守り事業所活動による体制が展開されています。

それに加え、市独自の取組として地域見守り相談員が主に75歳以上の一人暮らし高齢者の自宅を訪問しており、さらに官民連携として、移動販売事業者との連携や市内五つの郵便局との高齢者見守り支援の実証事業を開始しています。また、地域包括支援センターでは熱中症予防のための水分補給や適切なエアコン活用などのチラシを高齢者宅、通いの場訪問時に活用しており、市の地域見守り相談員の訪問にも活用しています。

また、こうした見守り体制をさらに強化する考えがあるかとの御質問につきましては、まず現在のこれらの取組を支える人財の確保と、体制をどう維持するのかが大きな課題です。独居など

の見守りが必要な世帯は今後も増加することが予想されるため、市内各地域の皆様や事業者の協力、既存の資源も活用しながら、熱中症予防対策も含め、さらなる継続的な高齢者見守り体制の確保を検討することが必要であると考えます。

〔市民福祉部長　大上雅人　着席〕

○８番（井端浩二）

まず、１番の農作物ですが、野菜は大変豊作ということ。そして畜産についてもさほど影響はなかったということですが、今後暑さがもっとひどくなるってことを想定すると、遮光ネットはもう既にやってあるんですが、報道で見たんですけども、牛に水をかけるっていうような状況があったんですが、そういった対策についてはやらないのか。あるいは家畜にも鶏とか豚もあるんですけど、そちらについてはどういう状況なのか確認をさせていただきたいと思います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□農林部長（洞口廣之）

畜産に関してですが、今各農家によって本当に独創的なといいますか、工夫した取組がなされております。一部の農家さんは、畜舎の屋根に地下水を上げて、屋根自体を冷やすということをやっている農家さんもいらっしゃいます。また、屋根に石灰をぺたっと貼り付けて、要するに熱がこもらないように、そういった独自の工夫をされている農家さんもいらっしゃいます。こういった知見も広く市内の農家さんに共有しながら、こういった対策を進めていただければなということを思います。

豚については、市内では養豚の事業者はいらっしゃいませんけれども、鶏舎に関しても同じような対策は有効だと思いますので、そういったことをまたお伝えしていきたいというふうに思っております。

○８番（井端浩二）

畜産についての話で、屋根のほうに水をかけたりするってことは大変いいことですし、今後も相談されたらまた御支援をお願いしたいと思います。

あと、増島保育園ですが、今年ＬＥＤをやるということで1,200万円ほどかかると。いっぺんには無理だと思いますが、今後もしやるとなれば、どれぐらい費用が必要なのか教えていただきたいと思います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□市民福祉部長（大上雅人）

エアコンの整備については以前も検討したことがあるそうですけれども、そのときも見送っております。議員の御質問の中にもありましたように、受電設備から整備しなければいけないということで、大変高額になると聞いておりますが、最近も業者にはお聞きしたそうで、キュービクルの回線に2,000万円、それからエアコン自体が約800万円かかるということを伺っております。

○８番（井端浩二）

設備も入れて2,800万円ということで大変高額な金額ですが、籠山議員の一般質問では、小学校の体育館だと6,000万円かかると。それよりは少ないので、体育館も当然大事ですが、またその中

の一つに入れていただいて御検討をぜひお願いしたいなと思ってます。

次に、観光客の暑さ対策ですが、暑い中で観光をしていただいているということで、特に暑い時間帯はなるべく避けているという話ですが、市民にはクールスポットで郵便局とか市役所が利用されているようですが、観光客のクールスポットっていうことを考えると、昨日の話でも飛騨古川駅がなくなるっていうことになると、飛騨古川駅をクールスポットにしたらどうかって、昨日、話を聞いていてちらっと思ったんですが、それについてはどうお考えですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□理事兼商工観光部長（森田雄一郎）

先ほどクーリングシェルターにつきましても答弁の中で触れさせていただきましたけれども、やっぱりその辺の必要性を見極めて、可能性の一つとして今議員御指摘の飛騨古川駅舎の活用ということもありましょうし、町なかでのクーリングシェルター、まちなか観光案内所もございますけれども、そのほかの場所に設置をするということも検討する必要があるかもしれません。

○８番（井端浩二）

ぜひ観光客にもやっていただきたいと思います。

そしてうちわですが、そんなに予算もかからないと思います。以前、起し太鼓のついたうちわを見たことがあるんですが、暑いんですけども、こうやって振りながらいると何か涼しさを感じるんですよね。そういった意味では、飛騨古川まつり会館を見た人にあげるとか、あるいはどこかの料理屋で食事した後にうちわをあげるということで、観光のＰＲにもなると思います。あるいは神岡町でも、スーパーカミオカンデの写真を入れたようなやつを配ったらどうかなという提案なんですが、それについてはどうですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□理事兼商工観光部長（森田雄一郎）

そういったグッズの導入ということも考えられなくはないかなというふうにも考えておりますけれども、議員も御承知のとおり、特に古川町の今の観光の動向を見ますと、ヨーロッパの方々が結構お越しいただいていて、現場としてあるのは、プラスチック製品を手にすること自体に環境負荷っていうか、そこへの意識がとても高いらしいんですよ。私たちが日常に使うようなビニール袋みたいなものについても、極力使わないようなことを言われるっていうこともあったりして、その辺の意識がかなり違うということもあります。確かにプラスチック製のうちわを作って配布すればＰＲ効果もあるのかもしれませんけれども、今皆さんハンディーファンとか、遮熱性の高い日傘とかもたくさん活用されております中でどこまでやるべきなのかなっていうところは、ちょっと私どもとしてはクエスチョンマークをつけているところです。

○８番（井端浩二）

分かりましたけど、特に、外国人がうちわを振っていると、日本の文化っていうことでいいと思いますので、また頭の隅に入れてもらえばいいと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

次に、省エネの買替えのことですが、ゼロカーボンシティ宣言をした以上は、脱炭素という意味では今後長くといいますか、今４年たったわけですが、いつ頃までやられるのか。あるいは、

今エアコンとか冷蔵庫、ＬＥＤっていうふうにやってますけども、あと市民向けにどのような家電があるのか。今後、冬に向けてストーブが何に代わるかっていうと電気ストーブだけど、電気ストーブではちょっと物足りない感じはします。あとエアコンも、結構暖房を兼ねると金額的に高くなるんですよね。先ほど５万円は岐阜県の中でも補助率はいいほうだという話でしたが、その辺も含めて家電製品、あるいはほかのものでも脱炭素化になるような物がないか、その辺について考えられないかお尋ねをさせていただきます。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□環境水道部長（谷口正樹）

まず、この事業をいつまでやるかというお話ですけども、来年度までは国の事業に乗っかっておりますので、確実にやりたいと思っております。ただ、ゼロカーボンシティ宣言をしている以上、2050年度までに実質ゼロということに関しまして言えば、やはり継続したいというふうに思っております。ただし、予算がそれでつくというものではございませんので確約できるものではありませんが、当部といたしましては継続したいというふうに思っております。

それからメニューにつきましては、エアコン、冷蔵庫、照明器具というのが、夏期、冬期、ともに上位３位の家電製品になります。その次に給湯器っていうものはあるんですけども、給湯器っていうと、大きいものですとお風呂のボイラーになろうかと思いますけども、そういったものがやはり10年ほどもってしまうってことになりますと、あまりよろしくないかなっていいますか、上位４位には入っておりますけども、対象とするにはまだ分かりませんけども、今のところは、その３点で向かっていきたいと思っております。

○８番（井端浩二）

2050年までってことで、脱炭素という意味では、今後のメニューについて何がいいかっていうことを考えないといけないと思うんですが、僕も何があるかなっていうことを考えると、今後冬に向けて床暖房をボイラーから電気に変えるっていう方法も少し考えたんですけど、やはり設備費がかなりかかるっていうこともあります。その辺についても御検討いただければなと思いますが、御回答いただければと思います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□環境水道部長（谷口正樹）

今ほど床暖房の話が出ました。私の家も実は床暖房があります。当然ボイラーでやっております。やはり10年ぐらいで壊れてしまいまして、そういったときに、こういった補助金があるといいなというのも確かに個人的には思います。ただ、これは市民のニーズをいろいろ聞きながら検討をしてまいりたいと考えております。

○８番（井端浩二）

脱炭素についてはいろいろあると思います。また、長くやっていかないといけないと思います。うちも床暖房で、確かにボイラーなんです。なので、それを電気に変えるってことはなかなか厳しいなと思うんですが、今の新しい家は全部オール電化になっていますので、そういうことについてもまた考えていただきたいなと思います。

これからもますます暑くなりますので、いろいろな面で暑さ対策について御検討いただければなと思いますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、２点目、神岡町の出生数についてお伺いさせていただきます。今朝の中日新聞の飛騨版にも、神岡中学校の双子の女の子が、近くの一人暮らしのお年寄りのところへ、週２回、ごみ出しサポートをしているということで、大変うれしいことですし、ありがたいなと思っています。そういった子供が今後減っていくっていうのは大変残念に思いますが、そういったことを思いながら質問をさせていただきます。

３つの質問をさせていただきます。神岡町の令和６年の出生数の人数が７人と聞き、私は大変驚きました。今後の神岡町のことを考えると、とても心配です。平成27年には51人、令和３年には33人、令和５年は18人、そして令和６年に７人と、ここ10年ほどで出生数が大きく減少しています。今年については、８月現在で９人だそうです。子供たちの笑顔は町の元気につながります。日本全体の出生数も減少しておりますが、飛騨市のほかの３町も当然減少しております。しかし、神岡町については、その減少のスピードがあまりにも急激であり、今後の地域の在り方について心配しています。そこで、次の３点を質問させていただきます。

１つ目、「神岡町のまちづくりを考える会」について。神岡町は、神岡鉱山によって栄え、人口も多く、元気のある町でした。近年は、鉱山の町から宇宙科学の町へと変わり、今後も「ひだ宇宙科学館　カミオカラボ」を利用した観光誘致に期待されます。しかし、現在は人口や子供の数も減少し、以前と比べると寂しくなった感じがします。一方で、飛騨神岡祭、ひだ神岡夏まつり、吉田常蓮寺の太子踊りなど、現在も地域の伝統行事がしっかり開催され、子供たちも受け継がれようとしています。大変すばらしいことで、神岡町には地域の住民の団結があるように感じます。そのような神岡町で、子供の人数、つまり若者が減少していることは大変寂しいことだと思います。

以前、2020年頃に神岡町のまちづくりを考える会があり、神岡町のまちづくりについて幅広い年齢層を対象に、440名の方からアンケートを取ったと聞いています。その後、この神岡町のまちづくりを考える会はどうなったんでしょうか。また、当時実施されたアンケート結果は、その後、神岡町のまちづくりにどう生かされたのでしょうか。以前、報告があったのかもしれませんが、再度お尋ねをさせていただきます。

２つ目、神岡町のまちづくりを考える会を復活できないか。私は、神岡町のまちづくりを考える会をもう一度復活させてはどうかと考えています。当時のメンバーの方にも参加していただきながら、新しいメンバーとしてＣｏＩＵの大学生や女性、若い世代の方々にも加わっていただき、幅広い世代で神岡町のこれからを考える場をつくれないでしょうか。神岡町の人口減少や子供の数の減少の原因、対策などをみんなで話し合うことができればと思います。もちろん、話し合ったからといって、すぐにこれといった答えが出るとは限りません。しかし、このままでいいのかという考えを持ち、地域の皆さんが一緒になって話し合うことが町の元気を取り戻し、少しでも前へ進むきっかけになればいいのではないでしょうか。市として、神岡町のまちづくりを考える会の復活を支援する考えはないか。また、今後神岡町のまちづくりについてはどう考えているのかお伺いさせていただきます。

３つ目、移住支援センターについて。2023年に移住センターが開設されてから約３年が経過し

ました。開設された年から移住者数、世帯数とも伸びており、平均で125人、70世帯と聞いています。その結果に驚くとともに、移住支援に取り組んできた皆さんに敬意を表します。県内でも移住支援がしっかりしており、飛騨市住むとこネットとも連携しながら相談窓口を設けられていることから、今後も移住者の増加が期待されます。３年が経過した今、今後の見通しと飛騨市、特に神岡町への移住者をさらに増やすことができないでしょうか。飛騨市神岡町の魅力を市外へ向けて、より積極的にＰＲしていく必要があるのではないかと考えます。今後の取組と飛騨市全体、神岡町への移住促進についての市の考えを伺います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔神岡振興事務所長　大始良透　登壇〕

□神岡振興事務所長（大始良透）

それでは、１点目と２点目のご質問についてお答えさせていただきます。

１点目の神岡町のまちづくりを考える会についてですが、この会は平成30年度に設立をされ、そこで出されたまちづくりに関する幅広い御意見やアイデアを具体化するため、令和２年に富山大学の安江准教授を座長として「令和版神岡のまちづくり検討会議」として再始動いたしました。この会議におきましては、計８回にわたる活発な協議を重ね、約440件の町民アンケート結果も反映させた上で、令和３年１月に行政に対する具体的な提言書が市長へ提出されております。

この提言書では、地元のファミリー層が楽しんで生活できる町づくりを主眼に捉え、子供たちの遊び場や子育てインフラの整備、地域の歴史・自然を生かした体験型学習や人づくりの重要性などが盛り込まれております。

市といたしましては、この提言内容をしっかりと受け止め、子供たちが集まる居場所づくりに取り組む中で、坂巻公園においては、小さな子供たちが遊べる遊具の整備をはじめ、旧テニス場を人工芝へ整備し、子供たちがのびのびと遊べるスペースの確保を進めてまいりました。これらの取組は、結果として提言書において示されたニーズにしっかりと応える形になったものと捉えております。さらに、提言書にございます鉱山資料館につきましても、現在リニューアル整備に向けた検討を進めているところでございます。

次に、２点目の神岡町のまちづくりを考える会の復活についてお答えします。議員御指摘のとおり、若い世代や多様な方々を交えて地域の未来を語り合う場の重要性につきましては、市といたしましても強く認識しております。当時のアンケートにおきましても、市民の皆様が人口減少を自分たちの問題として捉え、町を前向きに変えていこうとする熱意や郷土愛が明確に示されておりました。

こうした中、平成30年に発足したまちづくりを考える会、また、その議論を引き継ぎ、提言書を取りまとめた令和版神岡のまちづくり検討会議につきましては、一旦その役目を終えておりますが、本来はこうした会を通じて、市民の皆様が自主的にまちづくり活動を進めていくことが望ましい姿であると考えております。

その点におきまして、現在、神岡町内では神岡商工会議所や同青年部、飛騨市観光協会神岡支部をはじめ、地域活性化に向けて活発に活動されている団体が数多く存在しております。そのため、市として改めて新たな会を立ち上げるかどうかにつきましては、まずはこうした熱意ある各

団体の自発的な動きや活動状況をしっかりと見極めた上で、今後の支援や連携の在り方を検討してまいりたいと考えております。

〔神岡振興事務所長　大始良透　着席〕

◎議長（澤史朗）

続いて答弁を求めます。

〔企画部長　畑上あづさ　登壇〕

□企画部長（畑上あづさ）

それでは私からは、３点目の移住支援センターにつきましてお答えをいたします。近年の出生数の減少は、神岡町内に限らず、市内の他地域においても同様でありまして、移住・定住促進施策については、市内全域において進めていくべきものだと認識しております。

移住支援センターは、議員おっしゃられましたように、移住相談窓口といたしまして令和５年度から開設しております。このほか、市内に移住コンシェルジュを配置することによりまして、移住検討者の多様なニーズに対応した相談体制を整備しております。また、市の各種移住・定住支援施策の充実とＰＲに努めた結果、宝島社発刊の「住みたい田舎ベストランキング」において、上位に位置づけられているところです。

こうした取組によりまして、直近の３年間における県外からの移住者数の推移は、令和５年度が106人で県内６位、令和６年度が104人で県内５位、令和７年度が121人で県内３位となっておりまして、人口千人当たりの移住者数では、令和５年度及び令和６年度が県内１位、令和７年度が県内２位と、着実に成果につながっております。

今後も、移住支援センターを中心とした相談体制の充実と、各種移住・定住に係る支援施策のＰＲ等に努めることにより、市内全域への移住者数の増加につなげていきたいと考えております。

〔企画部長　畑上あづさ　着席〕

○８番（井端浩二）

移住センターのデータを僕も見てますと、支援制度ができてから急激に増えてるんですね。令和７年度については、古川町79件、神岡町でも76件というように同じぐらいの数字で移住してきてますので、大変ありがたく思っています。岐阜県でも上位になっていますので、今後また力を入れていただきたいなというに思ってます。

また、神岡のまちづくりを考える会ですが、今、いろいろ報告がありましたが、坂巻公園ができたりして、その結果についてはいいことだと思います。神岡商工会議所などについては、以前は町についての考えで、楽しいまちづくり、子供が住みやすいまちづくりってことでしたが、今回については、子供を多くできないか、あるいは若者を増やせないかということで、まちづくりを考える会ができないかなというふうに思ってます。

新しいまちづくりの会として、子供や若者を増やすようなまちづくりについて、商工会議所や青年部、女性会もあると思うんですが、保育士とかあるいは若い女性を交えた会ができるといいなと思います。当然、市から提言するのではなくて、一番は市民から持ち上がってくるのがベストなんですが、そういった働きかけができないかなと思ってますので、その辺についてお考えがあれば教えていただきたいと思います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□神岡振興事務所長（大始良透）

今ほど議員が御心配をされていらっしゃいますとおり、現在、神岡町におきましては、ここ10年で平均して190名ぐらいずつ減少しております。高齢化率につきましても、９月１日現在、48.95％ということで49％に迫る状況だということでございます。議員おっしゃられるとおり、今、子供や移住者を増やすことというのは、関係人口、交流人口を拡大するのと同じぐらい重要な問題だと認識をしております。

ですので、先ほども答弁で御説明をさせていただきましたとおり、まずはこの地域において活発に活動されている神岡商工会議所様をはじめ、飛騨市観光協会の皆様、あと、市におきましては移住、空き家の有効活用というところではふるさと応援課であったり、市内の商工業の活性化という面では商工課というところとまずは連携をさせていただいて、その中で新たな会議体が必要であるということになりましたら、積極的に働きかけをして、会議を設けさせていただこうと思っております。

○８番（井端浩二）

そういう団体とか若者の団体、女性の会なんかにも話しかけながら、ぜひまたそういう会を後押ししていただけたらなと思っています。そのような会議があれば、私も見守りたいと思いますので、またお声をかけていただきたいなと思います。

最後に、最近の新聞でしたかね、こども家庭庁が10万人のアンケートということで、大変寂しい話でございますが、35％の若者が結婚をしなくてもいいという結果があって、昔は結婚するのが当たり前だと思ったんですが、最近の若い人の考えというのは、そういう考えなのかなということを思ってます。

そういったことを踏まえながら、これは市長への質問になるのかな、飛騨市全体として子供は古川小学校、古川西小学校、中学校にしてもクラスが一クラスずつ減っております。全国的にもそうなんですが、昨日も人口減少で緩やかにということをおっしゃいました。今はたまたま神岡町が急激に減ったということで神岡町について質問させていただきましたが、飛騨市のほかの３町でも同じことになりますので、子供や若者が減る、あるいはとどまるための市としての考え、市長の考え、大変難しく結果はすぐ出ないかもしれませんが、どのようなお考えをお持ちかお尋ねをさせていただきます。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

△市長（都竹淳也）

先ほど神岡町の子供の数の減少の話がありましたけども、飛騨市全体でも、大体平成時代の終わりっていうのは大体130人前後なんですね。令和に入ってから大体100人前後で推移してちょっと増えてきていたんですが、この令和６～７年辺りでどんと下がって80人前後。これ実は、全国全部同じ傾向です。分析してみるとコロナ禍に結婚しなかったのが原因というのは明らかに出ていて、なおかつ、その時期に今議員もおっしゃった結婚を望まない層が急激に増えてきてるっていう問題が同時に発生しております。

この話はよくいろいろなところで議論もするし、こども家庭庁でもそういう話をするんですが、子育て支援策で子供を増やすっていうのは、ほぼ連動しないのが見えたっていうのが大体世の中の見立てでありまして、子育て支援策っていうのは、結局子供を持っている夫婦に対する支援なので、結婚するかどうかっていうところについての意識の変化に対する手がないというのが、先般もこども家庭庁で議論したときにそんな話がありました。そうすると、全国的な知見から見ても、こうすれば子供が増えるっていう方程式がなくなっている状態になっていて、その中でできるだけやれることをやっていくということにならざるを得ないんですね。

そういったベースの上で、私自身はどう考えてきたかっていうと、やっぱり若い人たちが働きたいと思う場所の創出だと思っていまして、これは今までも何度も議場でお話しさせていただいていますけども、市の事業をアウトソーシングしたりする形の中で事業所が生まれていけばということ、それからあとは起業ですね、この辺りに力を入れてきました。いつも申し上げている、飛騨市のふるさと納税のパートナーの株式会社ヒダカラという会社がありますけども、ここはもう従業員30人で、ほぼ若い女性。これは企業誘致しようと思ってもできなかったレベルの事業所です。そのほかにも教育支援の株式会社Ｅｄｏもそうですし、あと結構若い女性の人たちが起業しているっていう状況見ると、そういう働きたい場所をまずつくる。それが婚姻に結びついて出生に行くかっていうと、これはまた別問題かもしれませんが、それも一助だというふうに思っています。

移住も確かにそうなんですが、移住している層が必ずしも結婚・子育て世代の層ではないものですから、移住がその解になるかっていうとそうでもない。もちろん一定数は必ず子育て世帯数がありますから、これも大事にしていかないといけない。ですので、出生数を増やすためにというわけでは決してないんですが、若い人たちをサポートできるようなことをできるだけ多面的にやっていくということしかないんだろうと思ってるので、これをやればこうだっていう方程式がないという前提の上で、できる限りのことをやるというのが私の考えです。

○８番（井端浩二）

分かりました。ぜひ、若者が楽しめる町であったり、そういったことをしていただきたいと思いますし、私は子供を育てる楽しさも必要じゃないかなと。子供の笑顔は町の元気につながります。一人でも多くの若者が増えたり、子供が増えることを期待して、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

〔８番　井端浩二　着席〕